

2021年3月1日

# 2020年度 AG5 報告書



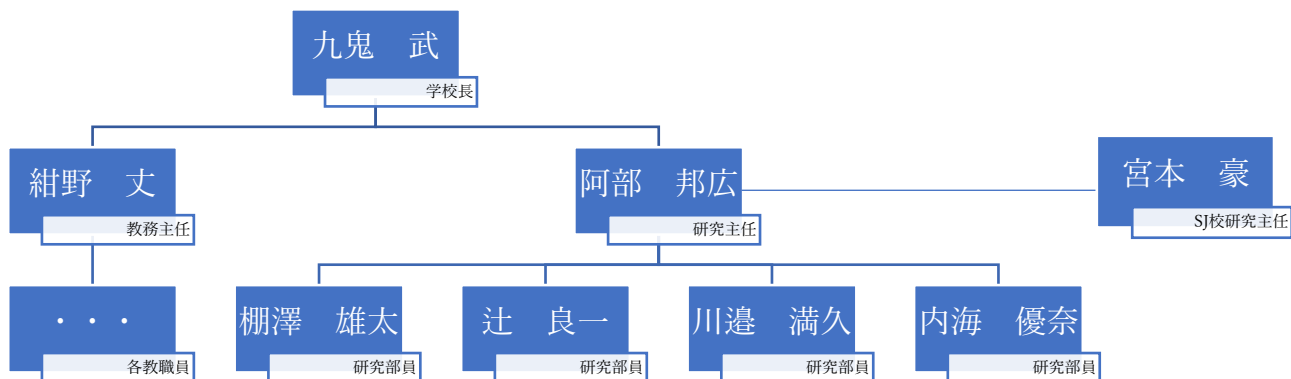
Escuela Japonesa de Aguascalientes

A.C.

# 目次

1. 実施体制	P2
2. テーマ	P2
3. 目的と概要	P2
4. 今年度実施した取組み	P3
5. 取組みの報告	P4-20
6. 今年度の成果・効果	P21-22
7. 環境整備について	P23-24
8. 次年度計画	P25
9. 所感	P26

## 1. 実施体制



氏名	主な担当業務	校内担当	派遣年次
阿部 邦広	総括・渉外	小学部担当（6年）	2年次
棚澤 雄太	合同授業実践研究	中学部担当（理科）	3年次
辻 良一	合同研修	中学部担当（理科）	1年次
川邊 満久	会計	小学部担当（4年）	3年次
内海 優奈	記録	小学部担当（5年）	1年次

## 2. テーマ

AG5 テーマ 6	ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発
本校の研究テーマ(2020)	豊かな表現力の育成 さまざまな考え方を伝え合う「楽しい」学習の充実を通して

## 3. 目的と概要

目的	日本人学校の教育の質を高めるための遠隔合同研修及び遠隔合同授業の実施モデルを開発する。
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コスタリカ・サンホセ日本人学校と2校の共同研究を行う。</li> <li>2. 遠隔合同研修を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 最新の教育課題を学びあう研修会を開催する。</li> <li>● ICTの活用方法について学びあう研修会を開催する。</li> <li>● 授業の質を高める方策について学びあう研修会を開催する。</li> </ul> </li> <li>3. 遠隔合同授業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各教科において、合同授業を実施する。</li> <li>● 一人1台のICT端末環境を取り入れた授業実践を実施する。</li> <li>● 異学年交流等の集会活動を実施する。</li> </ul> </li> </ol>

4. 今年度実施した取組み

(ア) 2校遠隔合同研修

回	日時	内容	概要
1	6/26	2020年度の研究の説明	両校職員顔合わせと研究計画説明
2	7/8	ICT ツール研修	Google アプリケーションとロイロノートの研修
3	8/28	遠隔合同授業事前研修	5年社会科の授業実践の事前研修
4	10/2	遠隔合同授業事前研修	5年社会科の授業実践の事後研修
5	11/6	遠隔合同授業事前研修	2年算数科, 3年道徳科の授業実践の事前研修
6	11/30	遠隔合同授業事前研修	2年算数科, 3年道徳科の授業実践の事後研修
7	1/26	研究成果報告会	2020年度の研究成果報告会

(イ) 2校遠隔合同授業

回	日時	学年	教科	単元	形態
1	9/22	5年	社会	これからの食料生産とわたしたち	遠隔合同
2	9/25	5年	社会	これからの食料生産とわたしたち	遠隔合同
3	9/28	5年	社会	これからの食料生産とわたしたち	遠隔合同
4	9/29	5年	社会	これからの食料生産とわたしたち	遠隔合同
5	9/30	5年	社会	これからの食料生産とわたしたち	遠隔合同
6	11/9	3年	道徳	オリエンテーション	遠隔合同
7	11/11	3年	道徳	3年元気組	遠隔合同
8	11/12	2年	算数	かけざん	遠隔合同
9	11/13	2年	算数	かけざん	遠隔合同
10	11/17	2年	算数	かけざん	遠隔合同
11	11/18	3年	道徳	なおとからのしつもん	遠隔合同
12	11/19	2年	算数	かけざん	遠隔合同
13	11/20	2年	算数	かけざん	遠隔合同
14	1/29	4～6年	学活	高学年交流	遠隔合同

(ウ) 環境整備

	購入物品	使用用途	備考
1	iPad+ApplePencil	遠隔合同授業	
2	Wi-Fi 拡張機	教室内のWi-Fi環境化	
3	iMac	iPadの集中管理	
4	iPad 収納棚	iPadの管理保存	
5	ケーブル類	Zoomと外部機器との接続	

## 5. 取組み記録

### 第1回サンホセ・アグアスカリエンテス日本人校合同研修会

#### 1 遠隔合同研修の概要

- 目的 SJ校とAC校の合同研修会を実施することで、最新の教育課題を共有し、指導力・授業力向上を目指した技術共有を実現する。
- 意義 教員同士の顔合わせを行い、AG5プロジェクトの見通しを共有する。
- 日時 6月26日(金) SJ校 14:00～ AC校 15:00～
- 概要 AG5取り組み内容と今後の見通しについて  
ルーブリック評価についての概要説明

#### 2 AG5取り組み内容と今後の見通しについて

※AG5プロジェクト実施計画

「ICTを活用した遠隔での教育研修および授業実践プログラムの開発」

- ・高度な(Advanced)、グローバル人材(Global human resources)の育成を目的として5つの研究テーマを取り扱う。
- 6つ目のテーマとして「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」をSJ,AC,RJ,SPの4校で研究・実践を進めていく。
- ・文科省・財団の求める研究の柱
  - ①遠隔合同授業：多様な考え方に触れる機会をつくる。
  - ②遠隔合同研修：最新の教育課題に対する情報不足の解消を目指す。
- 授業実践や理論研究を通して課題の解消を目指していく。
- ・SJ校とAC校の合同授業・合同研修
  - 1年次：交流中心→2年次：研修中心→3年次：授業中心と段階的に内容を深めていく。

#### 3 ルーブリック評価についての概要説明

※ルーブリック評価とは

子どもの学習到達状況評価するための評価基準。段階的に評価基準を記した「ものさし」を準備し、子どもの学びが評価項目のどのレベルまで達しているかを客観的に評価することができる。

→ルーブリック評価を導入することで、

- ①目指すべき到達度をはっきりさせることができる。
- ②パフォーマンスによって適切に評価することができる。

※到達度に達していない子どもに対しても具体の手立てを考えることができる。

- ・質的ルーブリック：抽象的なものさし。教師の看取りが大切。柔軟な評価が可能。
  - ・量的ルーブリック：具体的なものさし。分析しやすい。融通がきかない。
- 両者を用途に合わせて使う・組み合わせる使うことが大切。

## 第2回サンホセ・アグアスカリエンテス日本人校合同研修会

### 1 遠隔合同研修の概要

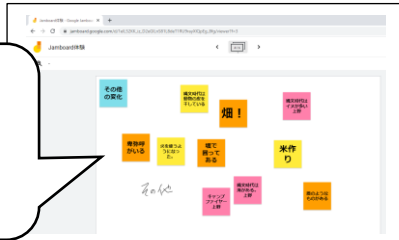
- 目的 SJ校とAC校の合同研修会を実施することで、最新の教育課題を共有し、指導力・授業力向上を目指した技術共有を実現する。
- 意義 今後遠隔合同授業を行ううえで、有効と考えられる手立て（アプリケーション）について理解を共有する。
- 日時 7月8日（水）SJ校14:00～ AC校15:00～
- 概要 ・Google アプリケーションの紹介（AC：阿部先生）  
・ロイロノートスクールの紹介（SJ：宮本先生）

### 2 Google アプリケーションの紹介

Google のアプリケーションは遠隔授業のみに役立つものではない。対面授業においても力を発揮し、政府が推進するGIGAスクール構想の核となるプラットフォームとなり得る。いくつかのアプリケーションの中から、今回は「Jamboard」と「フォーム」の実際の授業での活用場面の紹介。

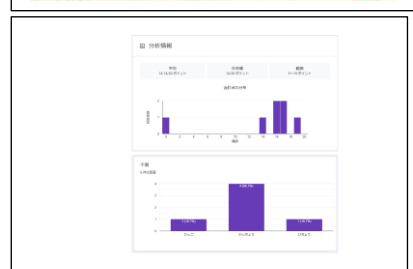
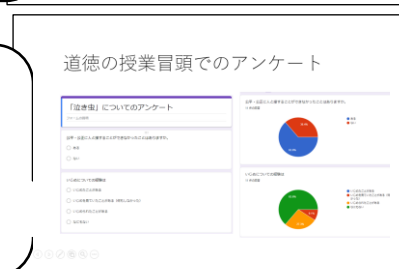
#### ○Jamboardについて

小6社会科で「縄文時代と弥生時代の比較」の際、Jamboardの付箋機能を使用。同時に、多様な考えを共有してまとめることが可能に。



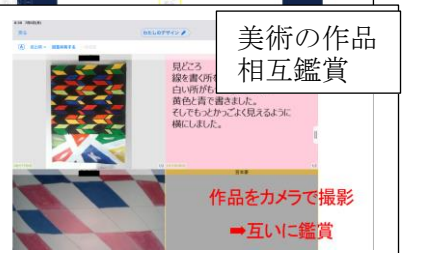
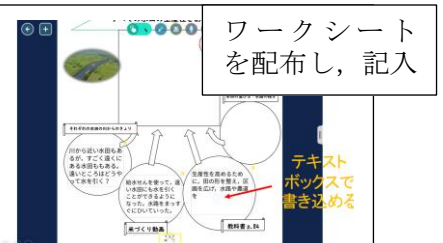
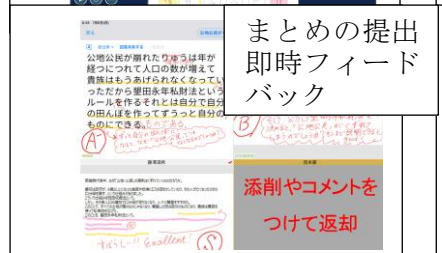
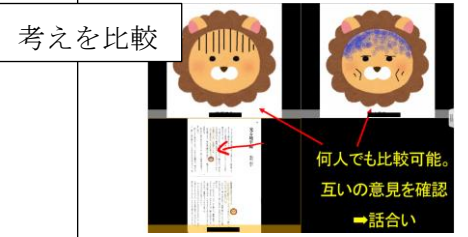
#### ○フォームについて

道徳の授業で、実態のアンケートをとることで、より学習内容が身近に捉えやすくなり、教育効果が高められる。また、右グラフは漢字の読み取りテストで、結果を即時フィードバック可能に。



### 3 ロイロノートスクールの紹介

ロイロノートスクールも遠隔授業のみに役立つものではなく、対面授業においても有効なツールとなる。1人1台の端末を児童生徒が持つこれからの時代に、さまざまな授業の場面での活用が期待されている。今回は、いくつかの学習場面での活用実践を紹介。



## 第3回サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校合同研修会

### 1 日時

8月28日 S J 14:00～ A C 15:00～ Zoom ミーティング (財団アカウント)

### 2 本研修の意義

9月末にアグアスとサンホセで合同授業を予定している。レコーディングで授業を記録し、10月研修で事後研修を行う。



本研修では、合同授業に向けて、ICT機器を活用して子どもたちが受ける授業を体験する。教員研修のアイデアとして検討し、今後のモデルづくりの参考にする。

### 3 授業案(単元計画・本時案)の説明(宮本教諭)

1 単元名 小5社会「これからの食料生産とわたしたち」

#### 2 目標

「食料生産に従事している人々の工夫や努力などが、国民の食料を確保するうえで重要な役割を果たしているということについて考えを深め、表現することができる。」

→思考力・判断力・表現力を重視

#### 3 指導観

##### (1) 遠隔授業における視点

◎ SJ校の研修テーマ「深い学びの実現」

SJ校重点目標 「ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の対話的な学習を充実させる」

◎ 遠隔授業での協働学習の手立て

- ・Zoom とロイロノートスクールを併用
- ・ワークシートとして思考ツール「シャカイカチャート」を活用
- ・学習課題に対しての仮解答をあらかじめ提示 →真意を探る
  - ※ 仮解答 …抽象的でわかりにくく、興味を引き、どうということか考えさせる。
- ・ループリックを利用して、課題に対する答えを自分でつくる。
  - ※ ループリックの提示 …ループリックを通して、見方や面白さを学ぶのが目的なので、キーワードを提示して、子どもたちでループリックをつくることも考える。ループリックのためのまとめにならないようにする。
- ・Google Form で本時のふりかえりをする。
  - 学習の到達度より満足度や意欲・充実感を振り返る目的で行う。
  - (例)「友だちと協力できたか」など

## (2) 児童（生徒）の実態（アンケートより）

- ・日本産の食料について、安全というイメージはあまりない。
- ・遠隔授業は楽しい。
- ・友達との交流はあまりできていない。→友達の意見を聞く経験ができていない。

## 4 学習計画

### ① 「日本がロックダウン！食べられる料理を確保せよ！」

もし日本がロックダウンしたら、どの料理だったら輸入しなくても食べられるか考える。  
裏面に生産地を書いた料理のカードを用意し、アイスブレイクも兼ねたゲームを行う。

### ④ 「食料を安定して確保するにはどうしたらいいのだろう」

JAの方へバーチャルインタビューをして、食料を安定して確保するためにどんな工夫をしているかを学習する。食料問題を考え、JAの方と課題を共有し、JAからの返答を待つ。

- ※ 現在、子どもたちは外国に住んでいることを考慮する。授業のゴールで「国産の方がいい」としすぎず、外国産でもおいしく安心なものもあるという内容の補足することで、子どもたちのこれからの生活に生かせるように工夫する。

## 5 本時の授業

### (1) 目標

国産（日本国産）や外国産の食料品における安全性を、生産・販売等に携わる人々の様々な工夫や努力と関連付けて考え、表現することができる。

### (2) 展開

2 買い物をするとき、国産牛肉とベトナム産牛肉のどちらを選ぶか考える。

3 社会科キャラクター「ミヤちゃん」が登場

学習課題「**どうして“国産”は安全なの？それは本当？**」 → 仮解答「**よく見えるから**」

4 調べるものを決め、ロイロノートを使用して調べ学習を行う。

（資料の内容：食料品の安全性を確保するための工夫）

5 (1) Zoom で資料の画面共有をしながら発表し、ワークシートをうめる。

(2) 検疫所の動画を見て、ワークシートをうめる。

→シャカイカチャートのイカの足の情報がそろろう。

(3) 学習課題「どうして国産は安全なのか」について話し合う。

→仮解答「よく見えるから」とはどういうことなのか分かる。

6 自分の言葉でまとめを書く。

→共有し、まとめ方のいいところを取り上げる。

7 Google Form で本時の振り返りをする。



#### 4 ICTを活用した交流場面の提案・体験（ロイロノートの操作）

ロイロノートをつかった授業の疑似体験をする。

**1 社会科キャラクター「ミヤちゃん」が登場し、学習課題について問いかける。**

「なんでおにぎりは三角なの？」 → 「おにぎりが三角なのは、～だから。」

**2 ロイロノートを活用して調べ学習をする。**

- ・ロイロノートへログイン
- ・ノートを新規作成 → ノートの画面へ
- ・ワークシートの配布（全員へ送る）
- ・資料箱からノートに資料を貼り付ける
- ・カードの作成 → カードと資料をつなぐ → 資料を見てわかったことを書く

**3 ブレイクアウトセッションで話し合う。**

**4 ロイロノートでワークシートを完成させる。**

資料の情報をつなげて、学習課題と仮解答の意味を考え、まとめを書く。

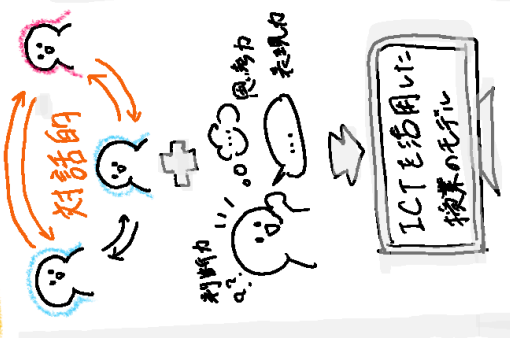
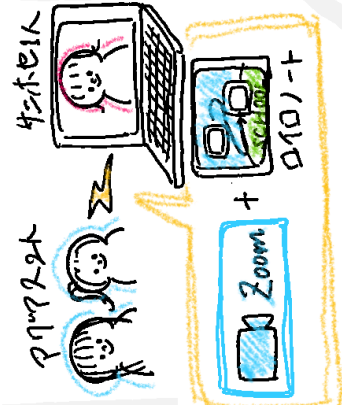
- ・カードを友達に送信する（個人へ送る）
- ・ワークシートへ資料とカード（自分のものと友達のもの）を貼り付ける
- ・動画データをノートに貼る → わかったことを書き、ワークシートに貼りつける

**5 ロイロノートでワークシートを提供し、まとめを共有する。**

- ・提出箱にワークシートを提出（締め切りの時間も設定可能）
- ・提出したものは提出箱で見られる
- ・全員のワークシートを共有で表示

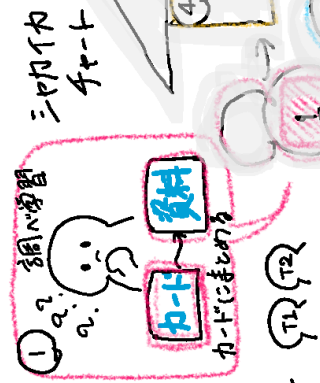
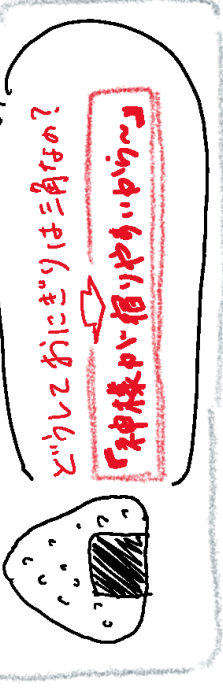
# 第3回 牛乳池-アマス合同研修

小売社会「これからの食料生産とわたしたち」

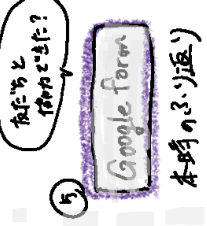
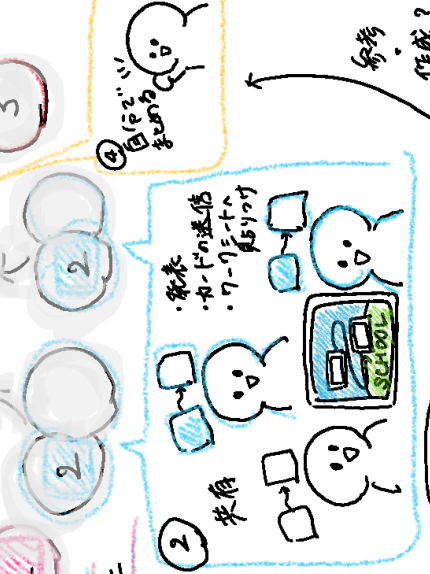


どうして国産は安全なの?  
**「よく見えるから」**  
 仮解答

販売の疑念以本線



食品の安全性






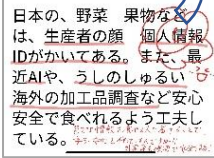
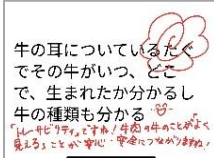
S	A
1-7	1-7

# サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校合同遠隔授業 及び 合同事後研修

## 1 遠隔合同授業の概要

対象 小学部5年生 3名 (SJ校1名 AC校2名)  
 日時 9月29日(火) 4校時 (SJ校10:10~11:00 AC校11:10~12:00)  
 単元 社会科 『これからの食料生産とわたしたち』  
 本時 「どうして国産は安全と言われるのか、それは本当か」 第3時/全7時間

## 2 遠隔合同授業の様子

	学習活動及び児童の様子	
導入	T1:『どうして“国産”は安全なの？それは本当？』 ミヤちゃん(社会科キャラクター)は知っています。その答えは『よく見えるから～』	
展開	資料を選んで、ロイロノートで調べ学習を行い、分かったことをテキストカードに記入する。 (① お肉のナゾの番号 ② たくさんの顔 ③ おいしさアプリ) C1: 野菜や果物にその生産者の人の顔、名前、IDが書いてあることが分かった。 C2: お店で買う人が安心できるように、AIで野菜の味を伝えることができるアプリがあることが分かった。 C3: 牛の耳についているタグで、牛がどこで生まれたかや、牛の種類が分かる。	
まとめ	テキストカードを友達に送信し合い、しゃかイカチャートにまとめる。 C2: 安心安全な食料品はどんなものでしょうか。 C1: 国産の食料は、食料のことが詳しく書いてあるから安心して食べられると思う。 C2: 『よく見えるから～』とは、 どうということだと思いますか。 C1: 野菜の味がアプリで見えて、その野菜を作った人の顔もよく見えるということだと思います。 C2: アプリや牛の生まれた場所など、国産品の食べ物には情報が詳しくのっていることが、 安全性や安心につながると思う。 課題のまとめを書いて、提出箱に提出する。 Google formで授業の振り返りをする。	  

### 3 事後討議

#### ① 対話的学習の充実のための「学習形態」(ロイロノート+iPad)は有効であったか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイムで考えを書き込み、文字で提示し、情報共有ができる。</li> <li>他者の意見を書きながらでなくても、授業に参加でき、話し合いに集中できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作に慣れるまでに時間がかかる。</li> <li>端末以外でノートが見られない。 →紙のノートはこれからの時代に合っているのか。</li> <li>普段の対話との違い。</li> </ul>

ロイロノートという手段を活用することで、情報共有ができ、学習の環境が整った。  
→対話が深まり、目的である授業の課題解決ができた。

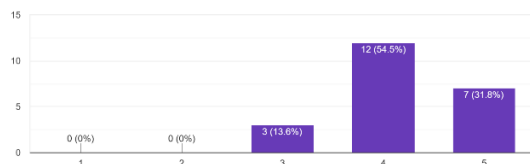
#### ② 対話的学習の充実のための「手だて」(独自のシンキングツール)は有効であったか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決までの流れがあった。 →見通しをもって授業に参加できる。</li> <li>仮解答により、ゴールが明確にあって話し合いやすい。</li> <li>全員が参加する必要がある授業形式。</li> <li>キャラクターに親しみが持てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての資料が与えられていた。</li> <li>一人一つの資料を分担していて、多様な考えにつながらない。 →一人一人が所属意識を持つ、第一段階としては良い。</li> <li>仮解答の深まりはあったか。</li> </ul>

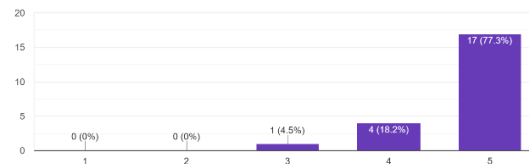
シンキングツールによって、様々な情報を整理し関連付けながら、話し合いやすくなった。対話的な学習を継続することで、今後は多様な意見につながる違う展開も考えられる。

### 4 研修のふりかえり

遠隔授業での「多様な考えに触れる」「多様な考えを伝えあう」場面のイメージができた。  
22件の回答



最新の教育課題（ICTを活用した授業）への取り組みとして参考になった。  
22件の回答



#### 感想

- 児童がお互いに刺激を受けて、日に日に変わっていく様子がよく分かりました。このような交流自体がとても価値のあることなのだろうと思いました。
- ICT活用の具体的なイメージがもてる素晴らしい授業でした。



2020.10.2

# 第4回

# サニホセ・アリアス合同研修

小1 社会 T1 T2 C1 C2 C3  
 「こまからの 履修進捗レポート」  
 200m + ロイロノート  
 アリアス  
 本時 10/29

事後研修  
 有文知は手段を複数

今後の遠隔合同履修の参考にする



## <Xリット>

小1ループや  
 ループ学習に◎

資料・ワークシート  
 の配布がスムーズ  
 書き取りも  
 記録が残る  
 話し合いに集中できる

7ペジリ-9-  
 の設定  
 7ペジリ-9-  
 のボード  
 意図の向上  
 操作に  
 慣れる

シンキニ-9-  
 三才イカチ-1  
 ゴールが明確  
 話し合いやすい  
 仮解答の  
 採まりは  
 思ったか  
 わかること

チャットで  
 親しむと持てる  
 ミヤちゃん  
 課題  
 仮解答  
 まとめ

課題解決までの流れ  
 (ルーティン)  
 ↓  
 見通しを持てる  
 安心  
 わかりやすさ  
 まじまる

## <デジタルリット>

94人教を  
 同様にとりこむ  
 資料を  
 取り取る時間  
 対話の時間

低学年の文字入力  
 紙で残らない

200m時代の  
 合、この  
 単元中心の学習

普通の対話  
 の対話  
 対話  
 対話

資料の準備が  
 大変  
 全ての資料が  
 与えられていた  
 資料の精選

全員が参加  
 (1人1つの資料)  
 99%参加  
 所属意識を持つ  
 第2段階として◎

今後の展開  
 ・教科書・資料集と連携  
 ・1つの資料で意見を出し合う

## <よりよい手法ツール>

目的は  
 X対話的な学習  
 O課題解決

・書き  
 ・フリック  
 ・声の録音

事前に  
 資料を見る  
 目的に合わせて  
 ・ロイロ  
 ・Jamboard  
 を活用する

単元中心の  
 学習  
 単元中心のものから  
 広げていくのが  
 現実的  
 対話的な学習の  
 継続

対話の準備が  
 大変  
 全ての資料が  
 与えられていた  
 資料の精選

今後の展開  
 ・教科書・資料集と連携  
 ・1つの資料で意見を出し合う

**サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校 小学部第3年生合同遠隔授業  
道徳科学習指導案 校内・2校合同事前検討会**



小学部3年生 12名 (SJ校1名 AC校11名)

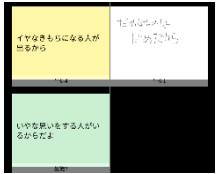
1 単元名 内容項目 C 公平, 公正, 社会主義 「なおとからのしつもん」

2 本時のねらい

人によって態度を変えることなく、誰に対しても公平に接することの大切さに気付き、それを実践していこうとする意欲と態度を育てる。

3 本時の展開

	学習活動及び内容	指導上の留意点・遠隔授業での手立て
導入	1. 均等に切れていないケーキの絵を示し、児童に配る。 ◇なぜずる位と思いますか。 2. 本時のめあてを確認する。	・物的な不公平から、「公平」について考えるきっかけにする。 ・Zoomの画面共有を用いる。 
展開前段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         公平に接することは、どうして大切なのでしょう。                     </div> 〈ブレイクアウトセッション〉 3. 「なおとからのしつもん」の場面の役割演技をする。	・ブレイクアウトセッションで2つのグループに分ける。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別扱いを受けた立場</li> <li>・ 不公平な態度を取られた立場</li> <li>・ それを見ている第三者の立場 (なおと役は T1 と T2)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>【手立て①】役割演技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物に自我関与 → 実感的な理解</li> <li>…相手により話し方が変わる児童がいる。</li> </ul> </div> 
展開後段	〈全体に戻る〉 4. 3つの立場それぞれの気持ちを発表する。 5. なおとの質問の答えを考える。 ◎「なんで、人によって態度を変えたらだめなの？」という質問にどう答えたらよいでしょう。(ロイロノートのテキストカードに記入・発表) ◇なおとはどうして人によって態度を変えていると思いますか。	・役割演技の場面を印象付けて行う。 →なおとへの共感 (さまざまな考え) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【AC校の研修テーマ】</b></p> <p>『豊かな表現力の育成 さまざまな考え方を伝え合う「楽しい」学習の充実を通して』                          →『対話的な学習』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現を工夫して意見を相手に伝える。</li> <li>・ 児童が多様な意見に触れ考えを深める。</li> </ul> </div>

終末	<p>6. 自分のことをふりかえる。 ○公平に接するためにどんなことを大切にしていきたいですか。 ◇今までに公平にできなかったことはありますか。 (ロイロノートのテキストカードに記入・発表)</p> <p>7. 教師の説話を聞く。</p>	<p>【手立て②】ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の考えを視覚的に共有できる。</li> <li>・「話す」以外の考えを伝える手段になる。 …調査から「あまり意見を言えない」児童が約3割</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見をほり下げたり，他の児童にも意見を聞いたりする。</li> </ul>
----	---	---

## 1 校内研修 指導案検討

### 【どうすれば「さまざま考え」を伝え合えるか】

- ・ さまざまな考えを持つための手立て → 「なおと」に共感できる展開づくり
  - ・ 役割演技の場面設定
  - ・ 教師の発問
  - ・ 児童の実体験を引き出す
- ・ さまざまな考えを伝えるための手立て → ロイロノートの活用
  - ・ テキストカードへの記入
  - ・ 比較機能

## 2 サンホセ・アグアスカリエンテス合同研修 指導案検討

### 【教師が子どもたちの価値観をリードすることなく授業を進める工夫】

- ・ 子ども自身で考えを深める工夫 → 児童が発言したことに対して問い返す。  
(例：「なぜか。」「どんなときか。）」  
他の児童にもその話題をふる。
- ・ 自分の考えを表現する工夫 → 考えはあっても，うまく言葉で表現できない児童への手立てを用意する。  
(例：直線やXY軸，心情円で視覚的に表現する。)

### 【研究授業本時の前の合同授業について】

- ・ AC校，SJ校どちらの児童にとっても有意義な合同授業になるように，授業の中で子どもたち同士の交流を大切にする。
- ・ SJ校1人の児童がどのように授業で関わっていくのかに注目する。  
→ 授業後の児童の変容をみる実態調査実施の







## サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校合同遠隔授業 及び 合同事後研修

### 1 小学部第3学年道徳 合同授業の様子

対象 小学部3年生 12名 (SJ校1名 AC校11名)

日時 11月18日(水) 4校時 (SJ校・AC校 11:15~12:00)

単元 内容項目 C 公平, 公正, 社会主義 「なおとからのしつもん」

学習活動及び児童の様子	
導入	<p>T: 大きいケーキをAさん, 小さいケーキをBさんにあげます。どう思いましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     公平に接することは、どうして大切なのでしょう。                 </div> <p>ブレイクアウトセッションで役割演技をする。</p>
展開	<p>席替えの時のこと…</p> <p>C1: よろしくね! (不公平な態度をとられる役)</p> <p>T1: えー嫌だなあ。何も話すことないなあ。(なおと役)</p> <p>ロイロノートのテキストカードに記入し, 考えを発表する。</p> <p>T: 「なんで, 人によって態度を変えたらだめなの?」という なおとの質問にあなたはへと答えますか。</p>
終末	<p>T: 公平に接するために, どんなことを大切にしていきたいですか。</p>



### 2 小学部第3学年道徳 合同授業の事後討議

#### ③ ブレイクアウトセッションを用いた役割演技により, 子どもたちの表現する意欲は高まったか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>発言の機会が増えた。</li> <li>座学よりも楽しそうだった。</li> <li>気持ちを体験することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲が高まったか調べる手段がない。 →その場で感想の共有をする。 その後の役割演技をする。</li> <li>なおと役も児童が演じてはどうか。</li> </ul>

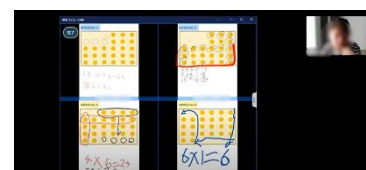
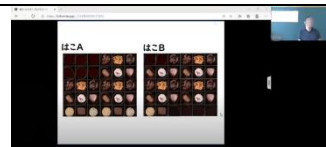
#### ④ ロイロノートを使った意見交流により, 効果的に様々な考えを伝え合うことができたか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>意見の集約が簡単にできる。</li> <li>すぐに共有できる。</li> <li>書いているところが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことに意識がいつってしまった。 →短く書くなどのルールを作る。</li> <li>画面が2つある。(Zoom と iPad)</li> </ul>

### 3 小学部第2学年算数 合同授業の様子

対象 小学部2年生 10名 (SJ校2名 AC校8名)  
 日時 11月20日(金) 4校時 (SJ校・AC校 11:15~12:00)  
 単元 かけ算(2)

学習活動及び児童の様子	
導入	<p>T: どちらの箱のチョコレートが多いですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     どうすれば、かけ算を使って簡単に数えられるだろう。                 </div>
展開	<p>ロイロノートを使って自力解決をする。                      (箱Aと箱Bを考える人に分かれる。)                      ブレイクアウトセッションで話し合う。                      (AとBを解いた人が混ざったグループに分かれる。)</p>
終末	<p>T: 作戦の名前を考えよう。                      C1: 動かし作戦 C2: 半分に切る作戦                      T: 同じ数のまとまりに注目すれば、かけ算を使って求められます。                      練習問題に取り組む。</p>



### 4 小学部第2学年算数 合同授業の事後討議

#### ① 多様な意見に触れるための「手立て」(ブレイクアウトセッション)は有効であったか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で支援がしやすい。</li> <li>発表しやすくなった。</li> <li>共通の考え方に気づけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めから全体で発表して進めてもよかつたのではないか。</li> <li>全体の指導を簡潔にしてもよかつた。</li> </ul>

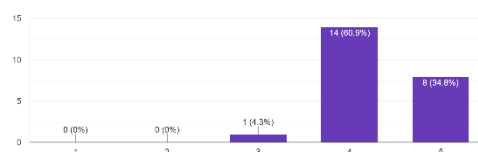
#### ② 対話的学習の充実の環境づくりとしてのロイロノート+iPadは有効であったか。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>共有しながら発表できた。</li> <li>一度書くことで自信を持って発表できた。</li> <li>黒板の代わりとして活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手段(ロイロノート)と目的(授業の課題解決)のあり方</li> <li>学習の軌跡の残し方</li> <li>提出まで様子が見られない。</li> </ul>

### 5 研修のふりかえり

【感想】教師が目的を見失わず、そのためにどのような使い方や約束事を児童生徒と事前に確認しておけばよいのかが分かりました。

遠隔授業での「多様な考えに触れる」「多様な考えを伝えあう」場面のイメージができた。  
23年度の割合



## アグアスカリエンテス日本人学校 令和2年度研究反省会

本校の今年度の研究を振り返り、合同授業の実践を通じた研究の成果と課題、そして、来年度への展望について、校内で意見を交流しました。

### 1 研究の成果

- ICT 機器とアプリケーションを用いて、授業をする方法がわかった。
- 遠隔授業でもサンホセと合同で教室に近い活動ができた。
- コロナウイルス流行による遠隔授業の実施もあり、教員も子どもたちも、日常的な ICT ツールの活用が進んだ。

### 2 研究の課題

- 本校とサンホセ日本人学校では、ICT ツールの活用状況や、授業内での活用に対する考え方が異なる。
- 学校の規模の違いもあり、今年度は本校では一部の教員しか実践の機会がなかった。
- 教員の人員の入れ替わりが激しく、昨年度と今年度の計画の違いがあった。
- 通常時の教室で行う合同授業の様子がわからない。
  - 本年度は教員も児童生徒も自宅からの遠隔合同授業だったため、教室からの合同授業は行っていない。
- ICT ツールを用いた授業の効果を高めるために、継続した取り組みが必要である。
  - 本校では全児童生徒分の機器が不足しているため、今年度の実践の形式（Zoom＋ロイロノート）では、日常的な継続は難しいのではないか。
- 授業前後で2校の教員（T1 と T2）での打ち合わせが必要である。
  - 今年度の実践では、毎授業前後に2校で連絡を取り合い、打ち合わせをしていた。
  - T1 の授業を実現するために、両校の児童生徒の実態を伝え合う T1 と T2 の打ち合わせは不可欠である。
  - 日常的な合同授業に向けては、計画的な時間の確保が必要になる。
  - 普段から気軽に教員同士の交流ができないか。（メール、Zoom のチャット等）
- 本校の研究テーマ「豊かな表現力の育成」に向けての研究ができたか。
  - ICT ツールは、本校の目標を達成するための手段である。
  - 一方、ICT ツールを用いた授業を行うためには、教員も児童生徒も基礎的な技術が必要なため、本年度は ICT ツールための授業になってしまう場面もあった。
  - 本校の目標である「豊かな表現」「様々な考え」の具体化と共有が必要である。

### 3 来年度への展望

- 子どもの学習意欲を高めるための手段として、効果的に ICT ツールを活用していく。
- 遠隔授業でも実感や体験に基づく学びができないか考え、できることを掘り下げる。
- 研究の目的を明確にして、授業の課題に応じた ICT ツールの活用方法を考える。
- 「豊かな表現力の育成」の実現のためには、遠隔授業の中でも議論ができ、意見をぶつけ合えるような機会をつくる。
- 多様な教科で、多様な活用 ICT ツールの活用方法を見出す。
- 2校で研究の目標を具体化して共有し、共通理解を図る。



校内研究反省会の様子

今年度の成果	今年度の課題	来年度に向けて
<p>ICT機器の活用能力の向上 (教師も子どもも)</p> <p><b>遠隔授業の実用化</b></p> <p>子どもの作業や思考の共有化の方法が見いだせた</p>	<p>「豊かな表現力を育む」ICTの活用方法がわからない</p> <p>サンホセ校との打ち合わせ時間の確保</p> <p>教室下での合同授業の形が見えない</p>	<p>・子どもの意欲を高めるために、効果的にICTを活用する</p> <p>・遠隔でもできることを掘り下げる 遠隔だけど実感があがる</p> <p>・課題に応じたICTの活用の仕方を考える</p> <p>・議論で意見をぶつけられるような機会がほしい</p> <p>・多様な教科で、多様な活用方法</p> <p>・サンホセと一つの目標、一つの目的にそろえる</p>
<p>教科を通して合同ができた</p> <p>ICTの活用が進んだ (AG5だからというよりはコロナによる影響の方が大きいと思うが...)</p> <p>合同授業ができた→発展させていく素地ができた</p>	<p>授業の目標=ICT機器の活用 (注意しない目標を見失いがちになる)</p> <p>「さまざまな考えを伝え合う」ことが難しくかった。少人数であること、オンライン上での慣れがあることが要因。</p> <p>機器の扱いに慣れるのに時間がかかった。</p> <p>AG5にふりまわされた</p>	
<p>アプリケーションの種類と活用の仕方を考えられた</p> <p>ロイロノートの活用・チャットボードの活用など、遠隔授業が多角的に展開できた。辻</p> <p>アプリを使って様々なことができた</p>	<p>教室と教室をつなぐ授業では活用していないので、学校が実現したときなどどのように活用するのか</p>	
<p>・ ICTの活用が進んだ 教員も子どもも日常的にパソコンやアプリケーションを使うことができた</p> <p>・ 授業の中で合同ができた</p>	<p>・ 教室での合同授業</p> <p>・ 来年度教員のメンバーが入れ替わる</p> <p>・ ICTを使って「豊かな表現力」が難しい</p> <p>・ 授業の目標=ICTの活用ではない ICTを使うことは目標ではなく手段 →サンホセとの共通理解</p>	

校内研究反省会後の研究部でのまとめ

# 令和2年度 研究のまとめ

アトキアカリス  
日本小学校

## 成果

コロナ禍による  
遠隔授業もあり

日常的に

ICT機器を  
使った

授業前にとりかざした  
(昨年までは交流)

アトキアカリスも使った

Google アトキアカリス

アトキアカリス

パソコンの合同で

Zoom

ICT機器を  
使った

授業前にとりかざした  
(昨年までは交流)

アトキアカリスも使った

Google アトキアカリス

アトキアカリス

## 課題

継続が必要  
機器の不足

授業の目標とICT活用  
手段

『豊かな表現力』  
ICT機器の活用

『豊かな表現力』  
具現化

子どもとの  
共通理解

打ち合わせの  
時間の確保

日常的な合同授業

メール  
Zoomの活用

計画

子ども同士のつながり  
TICの子どもの理解

教師の  
入力が  
教員

子ども同士のつながり  
TICの子どもの理解

教師の  
入力が  
教員

## 来年度への展望

多様な教科で  
多様な活用方法で

ICTツールを活用して  
意図をもつ

実感や体験にもとづく学び

議論→豊かな表現力

目標・目的を  
1つに絞る

## 今年度の成果

ICT機器、アプリケーションを使って授業ができた

遠隔授業で少人数でも教室に近い活動をする手立てを学ぶことができた

子どもたちもICT機器を活用することができた

考えを共有する方法が見つかった。

オンラインでもグループワークを使った授業ができた

単元での合同授業を行い、一歩前進することができた。



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C

## 今年度の課題

継続した取り組みが必要  
→機器の不足で難しい。機器の有効活用について

研究授業前に2校の子ども同士  
のつながりや、教師の子ども  
の理解が必要

アグアスとサンホセでICTの  
技術や状況、考え方が違うこと  
への共通認識の必要性

ZOOM授業と通常時の教室で  
行う交流授業との違いを認識  
して、今後授業内容や実践方  
法を検討する必要がある。

一部の先生にしか、実践の  
チャンスがなかった

昨年度と今年度の計画に違  
いがあった。



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C

## 今後の課題

### 2校の打ち合わせ（T1とT2）について

- ・あまりにも労力必要だと日常的には難しい…毎授業前後に打ち合わせをしていた
- ・計画や時間の確保が必要…普段から気軽に交流ができないか（メール、Zoomのチャット）

### 研究テーマについて

- ・研修テーマに向けての研修だったか ⇨ICTツールの研修になっていなかったか
- ・テーマ設定「豊かな表現」は適切か→ICTは手段、本校の目的を中心にする
- ・「豊かな表現」「様々な考え」の具体化と共有が必要
- ・研究テーマ「様々な考えを伝え合う」のが難しかった
- ・アプリケーションを使うための授業ではなかったか



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C

1 アグアス校の研究課題「豊かな表現力の育成と楽しい授業」について、価値観（どのような授業を目指すのか・ICT機器の有効活用など）の共有が重要である。

- 自校の教育課題（日ごろの授業の様子や学校評価などから児童生徒の強い部分と弱点を鑑みて、）克服に向けて、どう取り組むか。

- ①多様な教科で、多様な活用方法を検討する。

- ②一人一授業・各学年での実施に広げながら、どのように研究を進めていくか。

2 様々な教科で、研究課題に迫る実践を計画する。

3 ICT機器やアプリは、ツール（手段）であって、それらを研究課題実現に向けてどう授業に生かす事ができるか、十分検討していく必要がある。

- 課題に応じたICTの活用の仕方を考える。



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C

4 3月中に、新年度の研究主任同士で、来年度の行事予定表を見ながら、合同授業の実施日の検討を進めておく。

5 研究主任同士で、両校の成果と課題の共有及び、合同研究の方向性の共通理解を図っておく。

- 一つの目標・一つの目的

- そのために、3月中に日程を調整して打ち合わせをすることが必要である。



Escuela Japonesa de Aguascalientes A.C

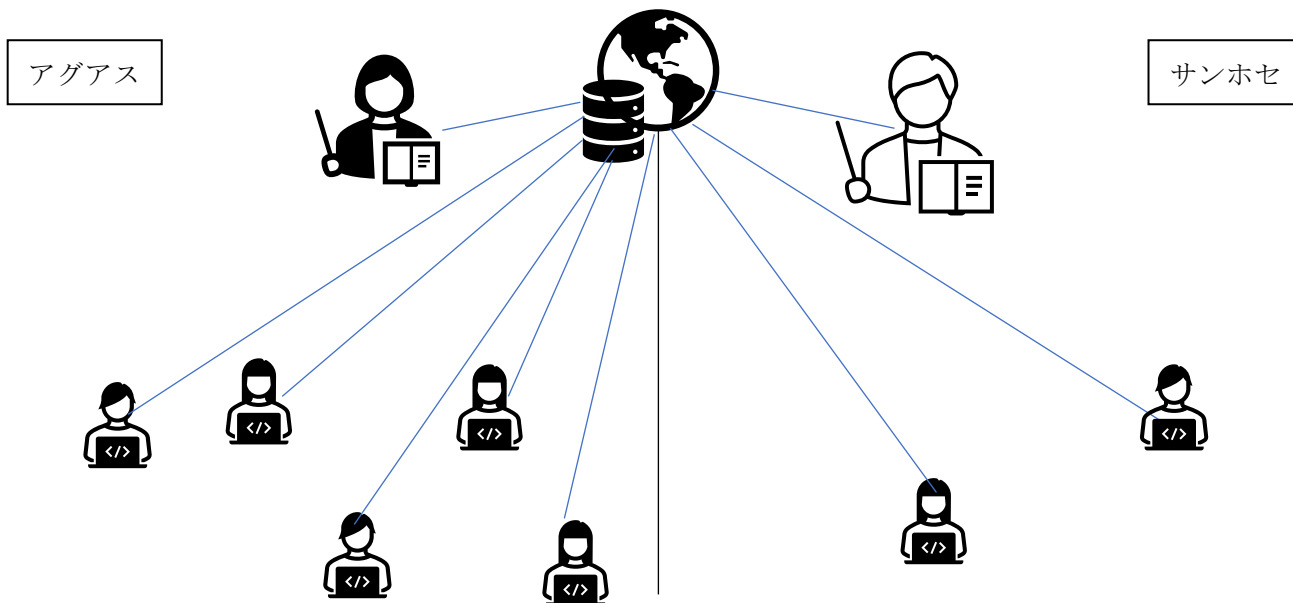
## 7. 環境整備について

### (1)各機器の使用法と説明

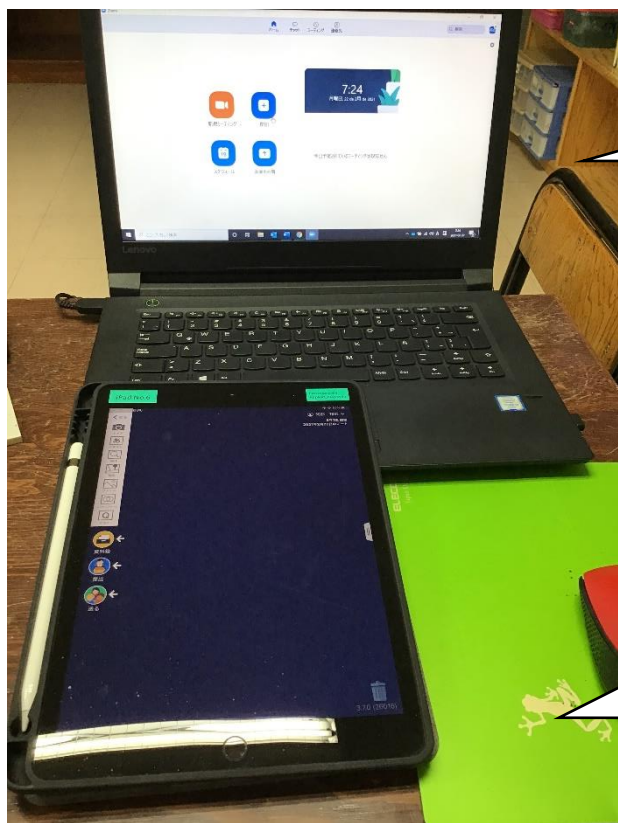
iPad+ApplePencil	Wi-Fi 拡張機
	
<p>Zoom での遠隔合同授業を行いながら、考えを表現したり、共有したりすることができる。</p> <p>Google Jamboard やロイロノート等のクラウドサービスを活用することで、遠隔地においてもノートを見せ合ったり、資料に書き込みしながら説明したりすることができる。</p> <p>ApplePencil を使用することで、手書き入力がスムーズにでき、タイピングが不慣れな低学年児童にも表現できるようになることや、絵や図を使って表すことができるなど、普通の鉛筆を使った学習と同様に取り組むことができる。</p>	<p>既設の校内有線 LAN と壁面プラグを接続することで教室内の Wi-Fi 環境が簡易に整備できる。</p>
iMac	
	
<p>Apple School Manager と Apple Configurator2 (MacOS 専用) を利用して iPad のアカウント及びソフトウェアを管理できる。児童生徒が利用する際に自由にソフトウェア等の構成を変更できないようにすることができる。</p>	



(2) 試行した環境構成



コロナウイルスによる休校のため、各家庭から別々の端末を使用して Zoom に接続を行った。



パソコンを教師や友達の顔を見ながら学習するための表示機能に特化させる。

考えの記述，提出，共有をタブレットに行わせることで，相手の顔を隠すことなく授業を実施できる。また，教室内でのタブレット活用にも同様の方法が活用できる。

パソコンにはテレビ電話機能の役割を，手元のタブレットにはノートの機能を持たせた。

8. 次年度計画

AG5 テーマ 6	ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発										
本校の研究テーマ(2021)	主体的に学び、対話的に深め合える子どもの育成（仮） さまざまな考え方を吸収し、自ら発信する学習の充実を通して										
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
AG5 研究についての研修			授業実践の蓄積					AG5 研究 3 か年のまとめ			
合同研修①	合同研修②	合同研修③	合同研修④	合同研修⑤	合同研修⑥	合同研修⑦	合同研修⑧	合同研修⑨	合同研修⑩	合同研修⑪	
		合同授業①		合同授業②	合同授業③ 合同授業④	合同授業⑤ 合同授業⑥	合同授業⑦ 合同授業⑧				
入学式 着任式			夏季休業		運動会		学習発表 会	冬季休業			卒業式 離任式

## 9. 所感

2020年度はコロナウイルス流行による休校措置により、予定していた通りには進まなかった。第1四半期は予定していた研究活動には手が回らず、研究の継続すら危ぶまれた。先の見えない非常時ではあったが、本校職員並びにサンホセ日本人学校の職員のみなさまのご協力を賜り、第2四半期以降、合同研究・合同授業が実現していった。

奇しくも、長期間にわたる休校がクラウド利用やZoomミーティングの有効活用を促進し、研究が大きく加速するきっかけとなった。2019年度末の研究成果からは考えられないほどにICTの活用は飛躍した。

2021年度はコロナウイルスの沈静化を見込み、2020年度に培ったICTノウハウを十二分に発揮し、教室と教室をつなぐ遠隔授業の取り組みを充実させ、最終年度の成果としたい。

2021年3月 アグアスカリエンテス日本人学校

研究部 阿部 邦広

棚澤 雄太

川邊 満久

辻 良一

内海 優奈

他職員一同

